季刊 えこびと

第27号
2018年1月

特別展示「漂着物のトランク・ミュージアム®」

Ｐ＆Ｐ特選句

10 月　溜池は終の棲か二羽の鴨　（光彦）
11 月　熟るる柿残す一つに鳥の寄る　（美代子）
12 月　枯菊を刈りつつ香りいとほしむ（美代子）

※Ｐ＆Ｐは俳句や川柳づくりを楽しむ eco-T のワーキンググループです。

特 集　エコットフォーラム 2017

活動報告　NPO 法人とよたエコ人プロジェクト取り組み
フォトレポート　11 期インプリ育成講座
エコネタ　エコット事業を全国にアピールしてきました！
人物紹介リレー　田中利江子さん
エコ人からのお知らせ

この季刊誌は持続可能で豊かな地域社会（エコライフとよた）の実現を目指す
NPO 法人とよたエコ人プロジェクトが発行しています。

特集　　10 周年記念事業　エコットフォーラム 2017

12 月 3 日（日）豊田市環境学習施設 eco-T で開催しました。参加者数は、61 名（内訳：33 名はインタープリター、28 名は一般参加者と市職員）。前半を 2 名の講師による講演、後半をワークショップという流れで行いました。また、期間展示プログラムと連携して、海や川の環境保全を行っている一般社団法人 JEAN からお借りした展示物「海がたいへん！！漂着物のトランク・ミュージアム®」も展示しました。海や海辺にたどり着いた様々なごみ（実物）がトランクの中に展示されており、皆さん関心を持って見ていました。

講師 山本 かおりさん

講師 五明 玲子さん

前半の講演、１人目の講師は NPO 法人ゆいツール開発工房代表の山本かおりさんです。「インドネシアにおけるプラスチックごみの問題と地元住民との取り組み」というタイトルでお話していただきました。

ロンボク島に住む島民と一緒になって、直面しているごみ問題（特に海ごみ）について活動している事例を、クイズを取り入れながら話をすすめてくれました。ロンボク島のごみ事情に驚きの連続で、その現状に対して何ができるのだろうと考えさせられました。

２人目の講師は環境カウンセラーである五明玲子さんです。「ごみと私たちの生活～生活ごみを半分に！～」というタイトルでした。まず初めに現在の活動に至るまでの経緯についてのお話。その後、「ごみを減らすためにできること」について語っていただきました。特に、一生懸命伝えれば、人には伝わるというのがとても心に残りました。

山本さんのワークショップは「インドネシアのごみを分別してみよう ＆ グループワーク”海のプラスチックごみを減らすために”」です。現地で行っている分別ゲームを体験した後、漂着ごみのトランク・ミュージアム®を使って解説をしていただきました。海ごみについてどうしたらいいか等を話し合い、その内容を共有しあいました。

五明さんのワークショップでは、持続可能な社会に向けてどうしたらいいかを話し合った後、納豆ケースとゴムを使ったおもちゃ作りの体験をしました。ただ捨てるのではなく、別の価値を生み出して利用することも大切であることを教えていただきました。

漂着ごみのﾄﾗﾝｸ・ﾐｭｰｼﾞｱﾑ®

豊田市には海はありませんが、三河湾に注ぐ矢作川があります。今回のフォーラムを通じて、海のごみ問題に無関係ではないこと、プラスチックごみを減らさなければいけないことを知っていただけたのではないでしょうか。

（eco-T 事務局　長内隆久）

活動報告　　NPO 法人とよたエコ人プロジェクト　取り組み

新しい体制になって早１年。NPO 会員、インプリ、豊田市そして事務局スタッフのご支援、ご協力のおかげで大過なく、新しい年を迎えることが出来ましたこと、厚く御礼申し上げます。

下記に、エコ人のこの１年間の取り組みをご報告いたします。

10 周年記念エコットフェスタ 2017

■eco-T の企画・運営

昨年は、eco-T１０周年を迎え、エコットフェスタ等様々な記念イベントを実施。リユース工房とのコラボで抽選会も実施

■対外連携・発信活動の強化

- 「環境学習施設を考える会」に加盟、幹事就任
- ５市エコアクショントークにて、環境取組を報告
- 愛フェス出展(モリコロパーク)　９月 16 日（土）
- 「リサイクルプラザ・環境学習センター　活性化プログラム　IN　豊田 2017」を eco-T にて開催 10 月 14 日（土）

■業務のスクラップ＆ビルド（新規業務の開拓、経費削減）

- 豊田市共働事業提案制度に応募
  市民が作るリサイクルステーション用「資源の分別・利用マニュアル」小冊子の作成に応募中
- 「紙芝居を通した環境学習」をテーマに、子どもゆめ基金に応募、助成金獲得
- 環境学習サイト「hibico」（子育ての中にあるエコな体験などについて発信）の更新停止
- 事務所経費を抑制するため、事務所移転を検討中

■組織強化

- 専務理事の事務局業務へのコミット強化による、事務局と理事会のコミュニケーションの円滑化
- スタッフがお互いの業務をカバーできるよう“多能工化”を推進
- 経理処理の適正化、経費節減、業務の効率化をめざし、監事による会計監査を定期的に実施

■働き方改革

時間管理意識の強化、就業規則の見直し、36 協定届け出等をスタッフとともに検討中。

豊田市環境政策課からは、中・長期的に業務委託費が削減方向にある中で、さらなる質・量の向上が要請されています。eco-T および NPO エコ人として「42 万人のエコライフ」を推進するために、今後さらに、エコ啓発活動の質・量の充実と業務の効率化を図ってまいる所存です。今後ともより一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、守随純子副代表理事が、平成 29 年度秋の叙勲にて、永年の社会教育功労（ガールスカウト活動）が認められ旭日単光章を受賞されたことをご報告します。

「人のため 世のため尽くし 叙勲受く 我らが誇り エコ人守随」　　（代表理事　横井純夫）

フォトレポート　　インタープリター12 期生育成講座開講！

豊田市環境学習施設 eco-T の受付や渡刈クリーンセンターの工場案内、小学校等への出前講座をする市民ボランティア(インタープリター12 期生）を育成しています。育成講座では、12 月から２月の３か月間、６回の育成講座を重ねて、インタープリターの基礎となる内容を習得してもらいます。申込みをいただいた受講生は８名。第４回までの様子をご紹介します。

＊＊＊＊＊第１回（12 月５日）＊＊＊＊＊

第１回は、運営体制やインタープリテーションについて説明をした後、KP 法（紙芝居プレゼンテーション法）による受講生の自己紹介をしました（ちなみに上の写真は、昨年正会員になってくださった寺田さん）。その後、自分が伝える立場になることを自覚しながら渡刈クリーンセンターを見学しました。

工場案内プログラムの体験

＊＊＊＊＊第2回（12 月 19 日）＊＊＊＊＊

第２回は、出前授業のプログラムを体験しました。上の写真は、工作体験（牛乳パックで小物入れ作り）の様子です。その他くらしの環境学習推進校の事前授業や、展示室の案内プログラムを体験しました。

出前授業プログラムの体験

展示室案内プログラムの体験

＊＊＊＊＊第3回（1月16日）＊＊＊＊＊

シナリオを考え中

第３回は、育成サポーターと一緒に中央制御室などの案内シナリオを組み立て、案内役を体験してみました。初体験なのでなかなか上手にお話することは難しそうでしたが、こういった実践の積み重ねが大事であることをわかってもらえたかなと思います。

工場案内にチャレンジ（中央制御室）

工場案内にチャレンジ（プラットホーム）

＊＊＊＊＊第４回（1月30日）＊＊＊＊＊

工場案内にチャレンジ（ごみの重さ）

工場案内にチャレンジ（ごみピット）

第4回は、渡刈クリーンセンターのごみの重さ、ごみクレーンバケット・ごみピットのシナリオを育成サポーターと一緒に組み立て、案内役として実践しました。各グループでどんなことを伝えたいかキーワードを考えてからシナリオを作っていきました。

次回（第５回 ２月６日）は紙芝居「おかえり」の読み方の練習と最終回に向けた練習を行います。そして最終回（第６回 ２月27日）は、工場案内の発表会と修了式を行います。各グループが役割を分担し、現役インタープリターが案内される側になって工場案内をします。その後に修了式を行います。

３月に３回の実地訓練を行い、４月からデビューです。少しずつ受講生同士の絆が生まれつつあるのを感じています。インタープリターとして巣立っていく時期がもうすぐそこまで来ています。春が待ち遠しいですね。

（eco-T 事務局　長内隆久）

エコネタ　　エコット事業を全国にアピールしてきました！

eco-T はこれまで、10 年間事業を続けてきた中でマスコミ報道や視察・研修、ホームページなど様々な形で情報を発信してきました。しかし、豊田市内外で事例報告する機会はあまりありませんでした。

そこで今年度は、積極的に事例報告の機会をもらい、３回ほど発表をしてきたので報告します。

（1）廃棄物資源循環学会での事例報告

昨年の９月６日（水）、「廃棄物資源循環学会」の環境学習施設研究部会が作った任意団体「環境学習施設を考える会」が開催する学会発表の中で事例報告をしました。

タイトルは「参加対象にあった環境学習プログラムについて～環境問題は私たちの問題～」。eco-T の特徴は、エコライフについて「気づきから行動へ」という合言葉をもとに、「市民が市民に伝える」環境学習施設であるということです。さまざまな市民を対象とした環境学習プログラムの内容をいくつか紹介させてもらいました。

前半は、ごみ減量の行動をするためのポイントを話しました。自分がどういう意識でどういう行動をしているのかを知り、今のままだと将来どうなるのかを把握することから始めると、何が必要なのかを主体的かつ客観的に知ることができます。また、相手にごみの減量について伝える場合、話をするだけではなく、相手が「あ、そうか！」と発見したり、ごみを減らす方法を体験したりすることで、新たな「気づき」が生まれその行動が必要だと理解するようになります。

後半は、実際に行っている eco-T の環境学習プログラムについて紹介しました。例えばエコットフェスタやエコットキッズタウン、工場見学や出前授業についてお話ししました。詳しくは、下記 QR コードから動画で聞くことができます。

検索　2017 環境学習フォーラム　長内

YouTube サイトでご覧いただけます。

発表の様子（9月6日　場所：東京工業大学）

（2）宇都宮市とエコットでの事例報告

NPO 法人生活環境ネット C&C（福岡県大野城市）が実施する「リサイクルプラザ活性化ネットワーク」事業で、２会場（宇都宮市環境学習センター[開催日：６月 10 日]と eco-T[開催日：10 月 14 日]）で事例報告等が行われました。宇都宮市では、「人材育成　活動団体内部の教育システムと施設見学者への対応」というタイトルでお話をさせてもらいました。インタープリターをどう育成しているのか、どのようにステップアップを図っているのかを中心に伝えました。

また、eco-T の運営マニュアルやインタープリター用テキストを整備し、毎年改善していることをお話ししました。

豊田会場では、施設の概要紹介と、インタープリターが行う工場案内を体験していただき、eco-T 及び当法人の活動 PR をいたしました。

２会場の話の内容は冊子になっています。eco-T 事務局に在庫がありますのでご希望の方はご連絡ください。（eco-T 事務局　住田雄佑）

発表の様子（6月10日　場所：宇都宮市環境学習センター）

発表の様子（10月14日　場所：eco-T）

人物紹介リレー　　田中利江子（たなかりえこ）さん（岡田さえ子さんからの紹介）

今回は、前回ご紹介した岡田さんの小・中学校の同級生、田中利江子さんインタビューさせてもらいました。

田中さんは生まれも育ちも豊田。久保町に生まれ、現在は志賀町にお住まいです。昔は久保町の自宅から花火を見ることができたと言います。

今回は、田中さんの環境への取組のきっかけや現在の活動、永年味噌づくりをしていることなど、とても興味深いお話をご紹介します。

●ごみを減らそうと思ったきっかけは？

1999 年に起こった名古屋市のごみ問題に影響を受け、自宅でもごみを減らしたいと思い、主人の会社の資材置き場の隅に小さな畑をつくり、生ごみを埋め始めました。収穫の楽しさや喜びを感じながら畑を広げていき、現在では約 80 坪の広さになります。野菜はほぼ自給自足できるほどに種類も増えました。余った物は知人にお裾分けしています。生ごみ以外は月２回くらいしか出ません。畑づくりは 15 年以上になります。畑はまず土づくりから。それが堆肥づくり、生ごみ処理と循環しています。

● 自給自足のこだわりは？

生ごみの処理はボカシを使っています。そして苗からではなく必ず種から育てる事にこだわっています。種から芽が出て、双葉になり、本葉になり、花が咲き、実りを迎える過程が楽しいからです。苗がたくさんできるのでご近所さんとお互いに交換しています。それでもいいことばかりではなく、さつまいもの収穫を目前にイノシシに全部食べられてしまったこともありました。それ以降イノシシ対策で柵を設置しました。

● 嬉しかったことは？

普段から川の汚れや生活排水のことが気になっていましたが、生ごみ処理を身近で見ていた孫がそのことを作文に書いてくれました。その孫が小学校３年生の時、学校でアクリルたわしのつくり方を指導する機会がありました。最後にはこども達にアクリルたわしをプレゼントし、みんなが興味関心を持ってくれたことも嬉しかったです。

● こだわりの味噌づくりについて

味噌づくりを始めて 20 年です。仕込みは２月にします。こども２人の家庭で考え、合計３軒の１年分 20～30kg を仕込みます。夫が山陰地方の出身で赤みそに慣れない上、口に合う白味噌が市販されてなかったことがきっかけになりました。米糀の配分を試行錯誤しながら今のつくり方になってきました。

田中さんのエコな暮らしは名古屋市のごみ問題がきっかけだったということですが、もともと環境への配慮があったからだと感じます。現在はマレットゴルフやご家族で海外旅行を楽しむ等とても行動力のある方でした。また、40 歳を過ぎてから宅地建物取引主任士に挑戦し、合格したというすごい方だというお話も聞けました。次回は田中利江子さんのご紹介で澤田あや子さんを紹介します。お楽しみに！

（インタビュアー　副代表理事　守随純子）

新しいスタッフの紹介

■浅田喜代子（あさだきよこ）（１月１日付け）

平成 30 年から eco-T とリユース工房でお世話になることになりました。
私の毎日の楽しみは、ペットのセキセイインコ「ポーちゃん」と言葉を交わすことです。
新しい仕事やエコのことを一つ一つ覚えていくことと、人との出会いに刺激を受けています。
皆様のご指導を受けながら頑張りますのでよろしくお願いします。

とよたエコ人プロジェクトの会員になりませんか？

〔会費〕

正会員	10,000 円（議決権あり）	
賛助会員	一般	1000 円／口
	学生	500 円／口
	非営利団体	3000 円／口
	営利団体	10000 円／口

＊エコ人の年度は６月～５月です。

〔会員特典〕

- 季刊誌「えこびと」を年４回お届けします。
- 会員メーリングリストに登録できます。講座やイベント、世の中のエコ情報が届きます（不定期）。
- e-cafe のコーヒーチケット３枚プレゼント！フェアトレードのコーヒーを飲みながらお話しましょう。
  毎週木曜日に eco-T で開催しています。

＊入会をご希望の方は下記連絡先まで！

編集後記

明けましておめでとうございます。新年を迎え、今度は年度末が近づいてきました。今年度の活動をふりかえって、次年度の準備を色々と進めています。新しいスタッフの方も入ったのでまた新しい雰囲気になりました。今年もとよたエコ人プロジェクトをよろしくお願いします。

（eco-T 事務局　住田雄佑）

発行・編集　NPO 法人 とよたエコ人（びと）プロジェクト

〒471-0025　愛知県豊田市西町 1-88 カニックビル５階
メール：info@t-ecobito.jp
当法人ホームページ：http://t-ecobito.jp/
eco-T ホームページ：http://www.eco-toyota.com/

当法人ホームページ　eco-T ホームページ